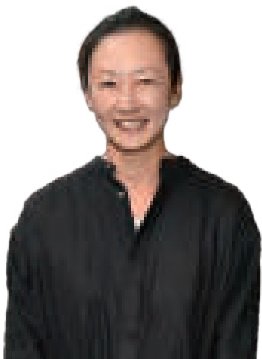


## いいことを 補い合っていきましょう



wataya farm  
青木 幸さん

尼崎市に生まれ育ち、10年間東京の会社に勤務。その後、夫と世界を旅して、6年前に両親の故郷である養父市に移住しました。現在は、兵庫の最高峰・氷ノ山の近くの山麓で季節の野菜や小麦を栽培。小麦はパンや菓子に加工して販売もしています。都会での暮らしは消費する楽しみが

ありますが、ここでは逆に何でも自分で作り出すことに喜びを感じます。特に清らかな水とミネラル豊富な但馬で採れるものは野菜を含めてすべてがおいしい。その新鮮で良質な食材から自分の体が



できていることがうれしいですね。

2023年からは養父市との協働事業で、子どもたちと山遊びのワークショップなどを開催しています。移住サポートセンターの相談員もしていますが、人口を増やすことが目的になってはいけないと思うので

す。移住する人がこの地でどうすれば幸せを感じて生きていけるかを地域みんなで考え、いいところを補い合っていきたいですね。

とってもサステナブル！  
チャレンジが楽しい



シェアスペース コトブキ荘  
松宮 未来子さん

豊岡市に移住したのは2013年頃。東京などで建築・デザインの仕事をしていた、映画館「豊岡劇場」を復活するプロジェクトに関わるようになったのがきっかけでした。豊岡には1925年の北但大震災後にできたモダン建築が残る復興建築群があり、劇場もその一つ。「街の資源として活用したい」と活動する中で友だちも増え、仕事を辞めて移り住み、築約90年の古民家を借りシェアスペース「コトブキ荘」を運営しています。



東京はお金さえ出せば楽しく暮らせるけれど、消費することに少し疲れ、隣人の名前すら知らないことに寂しさも感じていました。ここでは近くで捕れた魚を食べ、毎日多様な人との出会いがあり、困った時には隣人が助けてくれてとてもサステナブル！商店街の中にレンタルスペース「まちの基地アンテナ」もオープンしました。移住で広がった仲間と新しいチャレンジができるのが今すごく楽しいです。

いい意味で



さびれてます。

豊かな山の幸、海の幸があります。

Hostel Act & もりめ食堂

森 恵美さん



愛媛県出身です。大学進学から15年ほど京都で過ごしていた時、城崎温泉に行く途中で豊岡駅周辺を散策。故郷に似た街の雰囲気と人の温かさに心を驚嘆みにされ、移住のきっかけになりました。今は100年近く続く公設市場の中にゲストハウスを開設。宿泊場所としてだけでなく、地元の方も立ち寄れて、旅人と気軽に交流を図れる場所にしたいとの思いから、小さな食堂も併設し、ある種の地域のハブを目指しています。



周囲は木造のアーケードがすてきな商店街で、銭湯や映画館も近隣にあるのに、利用する人が減っているのがとても残念。世界中の人がやって来られるように、街並みだけでなく、人や暮らしも観光資源としてもう一度掘り起こしていきたいです。私がそうだったように、「自分の居場所のように豊岡に惚れた」と思ってもらえる活動を続けていきます。

## 町のためにできることは 何でもやります！

町議会議員をしながら、学習塾を経営し、デザインの仕事もしています。東京の大学を卒業後、Uターンして12年になりますが、その間、但馬の移住相談に乗ったり、コミュニティーづくりのイベントに関わったり、シェアハウスを立ち上げたりと、さまざまなチャレンジをしてきました。コロナ禍の影響もあって今は離れた事業もありますが、「この町のためにできることはしたい」との思いは変わりません。



1歳8カ月の息子と2カ月の娘の子育て真っ最中。学習塾では子どもたちの夢を広げようとクリエイティブな授業にも力を入れています。オリジナル手ぬぐいなど湯村温泉のお土産開発もお手伝い。町のランチ情報もWEBで発信しています。兵庫県が一番左上にある新温泉町を広く知ってもらい、未来を明るく切り開いていきたいですね。

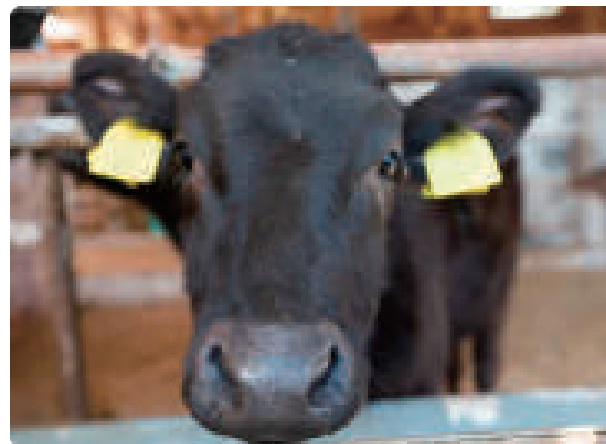


学習塾 MoCT 岡坂 遼太さん

ミステリアス  
TAJIMA

但馬

但馬牛は有名ブランド和牛のルーツやで。  
松葉ガニは冬の味覚の王者やな。  
極上の温泉もあるで。



但馬牛

Freedom Movement, United Gokoku of HYOGO, 2024

FM U5H

ひょうご地域創生フェス in 丹波

NOW ON AIR

Freedom Movement, United Gokoku of HYOGO, 2024

FM U5H

ひょうご地域創生フェス in 丹波

NOW ON AIR

Advance  
in  
TAMBA

移住

私の父は日本人、母はエチオピア人です。父の移住した丹波に私が東京から移ったのは2015年、35歳の時。以前は国際NGOで働き、紛争や災害、経済的理由で家が持てない人たちを支援していました。世界の格差に直面し、日本もグローバル経済に依存しすぎない暮らしが必要と考え、活動場所は丹波が最適だと思いました。最初は地域おこし協力隊として空き家の利活用を担当。今は市の移住定住相談窓口「たんば“移充”テラス」を運営し、住まい、仕事、暮らしの情報をワンストップで提供しています。

「ひょうご地域創生フェス」では「兵庫県若者の暮らしに関するアンケート」が参考になりました。都市部と地方では、性別役割分担への意識やクリエイティブ

な仕事の割合にそれほど差がないと聞き、驚きました。田舎だからって、できないことはない時代になったと言えるのかもしれませんが。おかげさまで丹波地域は移住者が増えています。移住促進はただ人を増やすことが目的ではなく、移住者がどのように地域と関われば活性化につながるのかを、戦略的に考える必要があると感じています。

兵庫には丹波をはじめとする五国があり、「私にはこの地域がフィットする!」「ここならチャレンジできる!」という場所を見つけられると思います。人生を120%楽しんでください。私自身がそうですが、移住者それぞれが自分の人生を充実させていれば、訪れた人たちが「楽しそう」と引き寄せられ、ますます移住の輪が広がっていくと信じています。

たんば“移充”テラス  
中川 ミミ さん

田舎だからってできないことはない時代

丹波は○○の先進地



子どもたちが住み続けられる街に

株式会社いなかの窓 元社長 本多 紀元 さん

教育

大学卒業後、神戸などでWEBエンジニアをしていました。2014年に篠山市(当時)にUターン。日本創成会議が発表した消滅可能性都市に地元が入っているのを知り危機感を持ったからです。地元で得意なITを生かせる企業が見つからなかったの、それなら自分でやろうと、株式会社を設立。WEB制作などでいろんな方と関わるうちに、若い世代に政治に関心を持ってほしいとの思いが強くなり、2024年から市議会議員として活動しています。

丹波篠山市は全国的に見ても教育熱心な街なんです。政府統計の総合窓口e-Statで全国792市を調べると支出に占める教育費の割合が全国平均よりかなり高く、人口あたりの小学校教員数は37位、幼稚園数は9位ととても高いレベルにあります。小・中学校では1人1台の情報端末を授業で積極的に活用。こうした子どもたちの未来への高い関心が、丹波篠山市の未来への関心につながり、子どもたち自身も生まれ育った街に誇りを持って住み続けられるようにしたいです。

目指すのは「しなやかなおっさん」。地域内で出しゃばりはしないけど、相談を受けたら気安く何でも進んで手を貸してあげられる。そんなおっさんになるのが理想です。いま丹波篠山市には地域おこし協力隊として若い人が多く来てくださっています。任期終了後も事業を興すなどして、7～8割が住み続けている印象です。地域と深く関わるほど、離れがたくなるようですね。地域も移住者に長く居てほしいと望んでいるし、そのサポート体制が整っています。これからも新しい出会いを楽しみにしています。

AWAJI  
Island Station

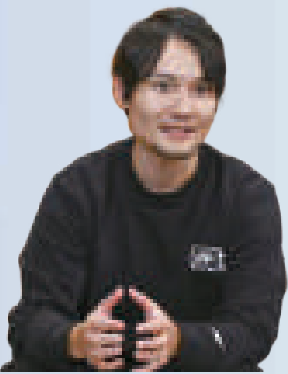
NOW ON AIR

20年後、面白いんじゃないかと思っています

人同士の距離感がちょうど良い

おもしろい仲間がドンドン増えてます

世界に視野を広げてワクワクを



NPO法人 Entrance To Awaji

武政 彰吾さん

「起業するなら、行ったこともなく、知り合いもいないところが面白い!」と、2019年に東京から南あわじ市に移住。友人とキャンプ場運営などの会社を立ち上げる一方で、市の委託で移住相談やツアーにも取り組んでいます。



「こういうものがあるといいね」を形にしていたら事業になり、最近駄菓子屋も始めたところですよ。

小学校で子どもたちが南あわじ市の魅力を自作スライドで発表するのを見たことがあります。彼らが羽ばたけば、20年後、面白いんじゃないかと思っています。都会しか知らない人生はもったいない。未来の主役が夢に向かっていけるよう土台作りをやっていきたいです。



株式会社シマトワークス

藤田 美沙子さん

大阪の会社で働いていました。結婚を機に移住を考え、淡路島での社会人インターンシップに参加。2022年に夫と洲本市に移住し、地域おこし協力隊としてシマトワークスの事業に携わっています。古民家を購入して改装し、地域交流拠点「HOOK」として昨年11月にオープン。自宅兼、シェアワーキングやイベントに活用していきます。



地域の皆さんと仲良くなれるか不安でした。でも、実際はすごくウェルカム状態。近すぎず遠すぎずのいい距離感で、とても良い住み心地です。今後は自家製ハーブを使ったアロマテラピー商品のブランドを立ち上げたいと思っています。

くうみの島。  
古事記編纂から1300年

# 都会しか知らない人生、モツタイナイ説



## 万博はチャンス 人と人をつないでいく

出身は岐阜県。京都の大学で2年の時に淡路島で「淡路ラボ」(次世代共創企画が運営)の長期インターンシップに参加しました。目的は淡路島を研究所に見立て、事業者、若者、地域をつなげてお互いの良さを出し合う関係を作ること。まずは観光名所をVR(仮想現実)で紹介する動画などを制作しました。そのままラボ事務局に就職して移住。現在は淡路島に暮らす人と島外の人をつなぐ「島の人事部」として、関係人口の創出に挑戦しています。全国の学生と事



淡路ラボ事務局 大畑 渉さん

業者の支援も担当。これまでに約50人の若者が参加し、6人が島内に就職しました。小企業でも雇用できる仕組みを構築したいと考えています。

淡路島の対岸に位置するのが、実は大阪・関西万博の会場です。淡路ラボは万博の「共創パートナー」に選ばれました。淡路島の観光や魅力を発信する絶好のチャンスがやって来しました。人と人のつながりが増え、淡路島が発展し、やがては兵庫県全体に波及していくことを目指したいですね。

